

## 臥位(寝た状態)での高速船搬送中止に関して

2026年5月12日高速船運行会社の方から臥位での高速船搬送は6月30日をもって中止するとの連絡がありました。熊本地区の公的機関と高速船運行会社との間で話し合いが持たれていますが、6月18日の時点で全く歩み寄りがない状態です。

期日まで1週間となりましたので、6月23日時点での対応策をお知らせいたします。

当院の臥位での高速船搬送は年間35人程度でその大半が高齢者の大腿骨骨折の手術目的の搬送です。

ご高齢の大腿骨骨折に対して、7月1日以降の当院での対応です。

### ●当院での手術

2019年から福岡徳洲会病院から来てもらっている尾上医師による当院での手術は継続いたします。

(年間2例～7例の手術実績)

現在、尾上医師とは別に徳洲会本部に相談し整形外科医、麻酔科医、手術室看護婦の3人チームでの定期的な派遣を打診中です。

### ●島外での手術を希望されている患者さんの搬送の方法

#### ◆ハイビスカスによる搬送

ハイビスカスには非常に広いバリアフリールームがあります。車両用乗船口から階段を経由せず入ることができ、乗り降りは安全です。内部には簡易ベッドがあります。前日に連絡すれば使えて、特別料金は請求されないとのことです。当院の職員で搬入でき、看護師が付き添います。

種子島には2時間ですが、鹿児島までは6時間30分と長時間を要します(長時間のため床ずれの心配があります)。

種子島医療センターで手術を受けられる場合は、種子島医療センターからお迎えの救急車が船まで来ていただけ、そのまま入院ができます。

鹿児島での手術を希望される場合は

鹿児島到着が14時40分のため受け入れ病院の希望は叶いやすい時間です。

到着時には、高速船の時と同じように民間救急で病院に向かうこととなります(15,000円程度有料になります)。

6月19日の段階ではバリアフリールームのエアコンが壊れている状態でしたが、6月中にはエアコンを直していただけるとお聞きしています。

#### ◆フェリー屋久島2による搬送

乗り込むときに、階段があり、安全に担架を運べないという課題があります。

当院の職員や町の職員の慣れない者による担架の担ぎ上げは危険で町も職員を出せないとの事でした。宮之浦港まで当院の車で運び、そこで鹿児島市内の民間救急に引き継ぎ、救急救命士など慣れた方に運んでいただくのが安全です。

屋久島から鹿児島市の病院まで民間救急の費用は12万円から15万円かかるとの事です。

フェリー屋久島2の特別室は有料ですが、ハイビスカスの簡易ベッドよりは寝心地は良さそうです。

4時間で鹿児島に着けます。

予約は2日前に必要です。

7月11日まではドック中のため利用できません。

17:40到着のため、夜間の受け入れ可能な病院に転院先が限られます。

#### ◆飛行機による搬送

JALによると、屋久島-鹿児島間の機材は臥位で搬送可能とのことです。

後ろの片側8席分を使用してベッドを作るので、空席があることが必須です（ベッド用8席、看護師用1席）。

料金は8人分取られないで、1人分のみ。ただし20,100円ベッド作成代として追加。

前例がないため、屋久島空港の職員がどのように対応できるか確認中です。

折角予約が取れても、もし欠航になったときに、すぐ次の飛行機の手配は厳しく、あくまで空席があることが条件です。

欠航の時はフェリーに変更するのが現実的です。

鹿児島に着いたら飛行機の中まで民間救急が入り、病院まで搬送してもらいます（有料）。

#### ◆フェリー太陽

エレベーターが小さく、結局狭く急な階段を使用しないといけません。種子島医療センターに行く場合、ハイビスカスの方が安全で民間救急派遣費用もかかりません。

■宮之浦港でフェリー屋久島2に屋久島の救急車と救急隊で担ぎ上げができない理由ですが、救急隊は本来1秒を争う救急搬送のためにあるため、フェリーの担架担ぎの間にもし救急要請があった時すぐに対応ができなくなるリスクがあるためです。

■当院からのヘリ搬送は、心筋梗塞など年間50例前後ですが、高齢者の骨折の搬送にヘリコプターを使ってしまうと、その間、命に関わるような状態になった方の搬送ができず、本来なら救命できた命が救えなくなることも考えられ、救急車がつかえないのと同じ理由で適用外と判断しております。

2026年6月23日

屋久島徳洲会屋久島徳洲会病院

院長 新家佳代子